



『はたらくことで叶える、ふつうの暮らし』

中国運輸局では、バリアフリーやユニバーサルデザイン等の分野において先進的に活躍されている方に『バリアフリーリーダー』となっただき、バリアフリー施策の推進に向けた活動にご協力をいただいています。この『バリアフリー通信』では、リーダーの皆さんを訪問してお話を伺い、当事者目線の情報を発信していきます。

記念すべき初回を飾っていただくのは、優しい笑顔に暖かいお人柄が滲み出ておられる、社会福祉法人もみじ福祉会の井上一成理事長です。広島市で第一号となった無認可小規模作業所の設立段階から携わり、施設の運営を通して多くの障害を持つ仲間と一緒に過ごしてこられたご経験から、障害について理解してもらいたいことなどを教えていただきました。

【今回ご紹介するバリアフリーリーダーはこちら！】



井上 一成 さん

社会福祉法人 もみじ福祉会 理事長
グループホームもみじ 管理者
短期入所事業もみじ 管理者
障害者生活支援センターめーぷる 管理者

◆社会福祉法人もみじ福祉会の歴史と、現在の事業内容を教えてください。

もみじ作業所は、「働きたい」「友達が欲しい」「社会に出たい」という在宅障害者の願いをかなえようと、1980年に広島市で最初の無認可小規模作業所として誕生し、1992年には法人認可を受け「社会福祉法人もみじ福祉会」となりました。当時の法律では知的障害者と身体障害者を同じ作業所で受け入れることは出来ませんでしたが、粘り強く広島市に土地貸与をお願いしたり、建設資金づくりに街頭カンパ活動等の取組を続けた結果、広島市から土地の無償貸与を受け、全国で二番目となる知的障害者・身体障害者の合築施設が完成しました。以降、現在は3つの作業所と4つのグループホーム、2つの福祉ホームの開所、障害者生活支援センター、2つの放課後対策事業の委託、およびヘルパー派遣事業等を行っています。また、啓発・教育活動として、ヘルパー派遣養成講座や、地域の小中学校や企業へ障害当事者の方と一緒に出向き、障害についての理解を深めてもらう活動等を行っています。



◆知的障害者と身体障害者を同一の施設で受け入れたいと考えたのはなぜですか。



法人化した1992年当時の制度は、知的、身体と障害の種類ごとに事業が行われていました。障害の特性は個人によってさまざまです。自分と違う相手を理解するという意味では、障害者も健常者も変わりないと考えています。無認可小規模作業所の時、知的障害を持つ利用者が、身体障害を持つ利用者が横になって食事するのを見て、「座って食べんといけんよ」と言ったり、身体障害の利用者が知的障害の利用者が同じことばかり言うのと「同じことばかり言ってしつこい」と、障害の理解が

できないことでトラブルになることもありました。しかし、お互いにできることで助け合ったり、理解し合うことでいろいろな仕事や取り組みができていたので、法人化しても法の枠を超えて一緒にできればと考えていました。

◆ご自身が福祉の仕事に携わろうと考えたきっかけは。

名古屋の日本福祉大学在学中に、全国で最初の共同作業所である「ゆたか作業所」のボランティア活動に4年間参加し、たくさんの事を障害のある人や職員さんから学びました。卒業して広島に戻ってきたところ、当時はまだ障害者を受け入れる作業所がありませんでしたが、ちょうど「広島市にもミニ作業所をつくろう」という集会があり、その集会に参加してもみじ作業所の発足の準備から関わらせていただき、現在に至っています。



◆精神・知的障害を持つ人が公共交通を利用する際、周囲はどのような配慮ができますか。

もみじ作業所にも公共交通を利用して通所している利用者がいますが、通所中のトラブルによって作業所送迎に切り替える方もおられます。どちらかと言えば安全面や安心面から公共交通の利用は縮小傾向にあるのが実際のところですが。

精神・知的障害をもつ方の特徴の一つとしては、場所や物事への強いこだわり、イライラすると大きな声が出してしまう、同じ行動を繰り返す等があり、周りの人が驚いてしまう場合があると思います。

変化に弱く見通しがもてないことへの不安が強い障害のある人にとって、場所や物事へのこだわりは、気持ちを落ち着かせるという意味もあり、それは多くの人を持つ「ルーティーン」とさほど変わりません。たとえば、バスに乗ったら必ず同じ席に座るといったこだわりを持つ方がいらっしやいます。その方は、いつもの席に人が座っていると、その人に向かってぶつぶつと喋り続けたり、自傷行為、ひどいと他傷行為に及んでしまうこともあります。いつもと違う状況に、

不安やストレスを感じてしまうのです。このような方は毎日同じ便を利用されることが多いので、乗務員さんからやんわりとそのお客さんに席を譲っていただけるように話していただくと、落ちつかれることもあるように思います。こうした理解や配慮をしていただくと周りの人も安心しますので、非常に助かります。

以上はほんの一例ではありますが、とにかく多くの人に理解をってもらうことが何より大切です。

*** 実際にバス通所されている皆さんの声 ***

- PASPYを使っている。
お金を出さなくていいのでとっても便利！チャージも自分でできている。
- PASPYの残高が足りずエラーになったとき少し焦る。



◆作業所ではどんなお仕事がありますか。

もみじ作業所では、道具や工具を工夫したり、みんなで仕事を分担して協力し合ったり、障害にあった仕事興しを大切にしています。仕事があって、それを誰が出来るかだけではなくて、その人が出来ることを仕事にしてやってもらっています。第一・第二作業所では、生活介護事業という比較的障害の重い方が、段ボールの組み立て作業やTシャツや縫製品等の制作、食品製造などの仕事をされています。



食べ物から一点ものの雑貨まで様々な製品をつくっていますが、特に『もみせん（おせんべい）』が好評で、広島県が実施している『ひろしまS-1サミット※1』では2年連続で最優秀賞を獲得することができました。

第三もみじ作業所では、クッキーやパンの製造・販売、配食の仕事があります。1階は『こねこね工房もみじ』というパン屋になっており、カフェスペースも設けています。利用者が一生懸命つくるパンは、どれもクオリティが高く美味しいです。店内からは利用者の働く様子が見えるようになっており、交代でレジにも立っています。街のパン屋さんのようなイメージで皆さんに親しんでいただけたらと思っています。



※1 広島県内の福祉施設・事業所が製造するスイーツ（S）、スナック（S）の品評会。一次選考でプロの厳しい審査を通過した商品は、毎年カープのファン感謝デーの日にマツダスタジアム内のブースで試食と一般投票を行い、部門ごとに最優秀賞および優秀賞を決定する。最優秀賞の商品は、「ひろしま夢ぶらざ」で1か月の特設販売を行う。

* こねこね工房 もみじ *

パンは種類豊富でランチにもおすすめです。店内で美味しいコーヒーと一緒にいかがですか。



一番人気は「もちりボール
(¥50)」見つけたらラッキーです



もみじちゃんの
マークが目印



… 店舗情報 …

住所:広島市西区観音新町 3-9-3

TEL:082-291-1121

営業時間:月~金 10:00~17:00

(土日祝はお休みです)

駐車場:あり(5台)

* 編集後記 *

皆さんがお仕事をされているときの集中力、手際の良さには驚きました。カメラを向けるとポーズを取ってくれたり整列してくれたり、質問にも一生懸命答えてくれたりと、とても明るく優しい方々でした。お忙しい中案内してくださった井上さん、ありがとうございました。手作りのパンは本当に美味しく、おまけにリーズナブルなので、おすすめです！